

オランダ戦。後半、CKから小川航基選手(右奥)のシュートが鎌田選手(左端)の頭に当たりチーム2点目の同点ゴールとなる



スウェーデン戦。後半、先制ゴールを決める前田選手(左)



チュニジア戦。後半、チーム4点目のゴールを決める上田選手



W杯サッカー

日本2位突破、 ブラジルと対戦へ 初のベスト8目指す

サッカーの第23回ワールドカップ(W杯)北中米3カ国大会は11日、メキシコ市で開幕した。大会は米国、カナダ、メキシコによる初の3カ国共催。48チームが参加した1次リーグで、F組の日本は1勝2分け、勝ち点5の同組2位となつて3大会連続の決勝トーナメント進出を決めた。初のベスト8進出を目指し、29日(日本時間30日未明)に決勝トーナメント1回戦で、最多5度優勝のブラジル(C組1位)と対戦。

日本は初戦で準優勝3度の強豪オランダと対戦。中村敬斗、鎌田大地両選手の活躍で2度追い付く粘りを見せて、2-2で引き分け、勝ち点1。次のチュニジア戦は上田綺世選手の2得点などで4-0の快勝。25日の最終スウェーデン戦では後半に前田大然選手の挙げた得点で先制。その後同点に追いつかれたものの、守備陣が踏ん張り1-1で引き分け、勝ち点5の2位となった。

森保一監督は「みんなが粘り強くチームのコンセプトを発揮し、選手たちはいい戦いをしてくれた。」と選手を労った。スコットランドの名門チーム、セルティックの主力、前田選手は「タフな試合だった。ゴールを決められてうれしい。修正して次は必ず勝ちたい。」と自信をのぞかせた。



「スポーツニュース」のダウンロードはこちらから

JSPN

スポーツ★ニュース

SPORTS NEWS
Vol.173

2026年6月29日発行

陸上・日本選手権男子400メートル
障害決勝の後藤選手



競泳・日本選手権男子200メートル決勝の大橋選手

17歳の2人、 目指すはアジアの星 陸上・後藤選手、 競泳・大橋選手

17歳、2人の高校生が9月開幕の名古屋アジア大会に向け、闘志を燃やしている。

後藤大樹選手(京都・洛南高2年)は6月に行われた陸上・日本選手権男子400メートル障害決勝で、U-18(18歳未満)の世界最高記録48秒09のタイムを出して初優勝し代表に決まった。2001年の世界選手権で為末大選手(当時・法政大)が出した47秒89の日本記録まで0秒20に迫る日本歴代4位の記録だった。「日本選手権は夢を見ているような気持ち。やるからには(アジア大会で)一番上を目指す。皆さんをびっくりさせたい」と決意を語った。

もう1人は6月の競泳・日本選手権男子200メートル平泳ぎで連覇した大橋信選手(大阪・四條畷学園高3年)。今年3月の大会で男子平泳ぎ3冠を果たしてアジア大会代表に内定した。今大会は50メートル、100メートルとも2位に終わり「うれしいが一つだけ」と笑みはなかったが、「まだ泳ぎの効率が上がっていない。アジア大会が勝負」と視線を先に向けた。

本紙面が日本スポーツ協会ホームページ内の「JSPNスポーツニュース」で見られます

日本スポーツ協会

検索



日本スポーツ協会ホームページTOPページ

PUBLISH[一覧はこちら]

JSPNスポーツニュース

で読みたいニュースを見つけてね!



JSPNスポーツニュース 第173号
2026年6月29日発行
(次回は2026年9月28日発行予定です)
JSPNニュースは、スポーツ振興くじの助成を受けて制作・配送しています。

企画：JSPN(公益財団法人 日本スポーツ協会)
https://www.japan-sports.or.jp/
監修：時事通信社
〒104-0061 東京都中央区銀座5丁目15番8号 電話03(3524)6944

